



イベント開発 ～地元企業と協働して～

【中学校】
○1年生

各学校の特徴的な取組

○大和中学校 1 年生：イベント開発の取組

1 年間の取組の流れ

6～7月	イベント開発の依頼を受ける イベント開発の仕方について知る
夏休み	会場の下見、イベント案考案
9～12月	イベント案のプレゼン イベント準備
1月	イベントの宣伝
2月	模擬イベント 最終確認
3月	イベント実施



大和中学校 1 年生の取組についてです。
地元にある果実の森公園さんと協働して、有料で行うイベント開発に取り組みました。

1 年間の取組の大きな流れです。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

小学校で学んだことの振り返り

The image shows three chalkboards with handwritten Japanese text. The top right board lists activities for 5th and 6th graders. The bottom left board lists activities for 3rd and 4th graders. The bottom right board lists activities for 5th and 6th graders.

[5年生]
大和のレンコン 森元さん
レンコン畑
阿部白桃 (大さき日本)
各グループで新聞にまとめる

[6年生]
和木、市長との交流
(昔の遊び) 神楽
不鼓
城跡、おみゆ工房
おいし倉
椋梨城跡、おいし倉
黒谷古墳、相良城跡
榎真寺

大和町の魅力について振り返ろう

[3年生]
三谷屋スーパー (社会見学)
阪井養魚場 (鯉)
子ども神楽
神田大池 (田に水を入れる)
サイアリングターミナル (蔵宗)
神田郵便局 (社会見学)

[4年生]
くわなし音楽館
水辺教室 (椋梨川)
田治米 稲泉場
大和図書館 (本の借り方 調べ方)

湯河原町吉浜小との交流
共通点、地域の課題(問題点)
・特産物、せせら踊り
みかん、果物
歴史上の人物 阪井養魚場

取組をはじめるにあたって、まず、小学校で学習したことの振り返りをしました。地域にある魅力を多く学んでいました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

昨年度までの大和中学校の取組の紹介

言語能力（聞く）

弁当に入れるおかずを
1品考えました

地域支援員

※スライドの右上にその時間で育成を目指す、または発揮する資質・能力を載せています。

地域支援員さんから、前年度までの大和中学校の先輩方の取組について紹介してもらいました。

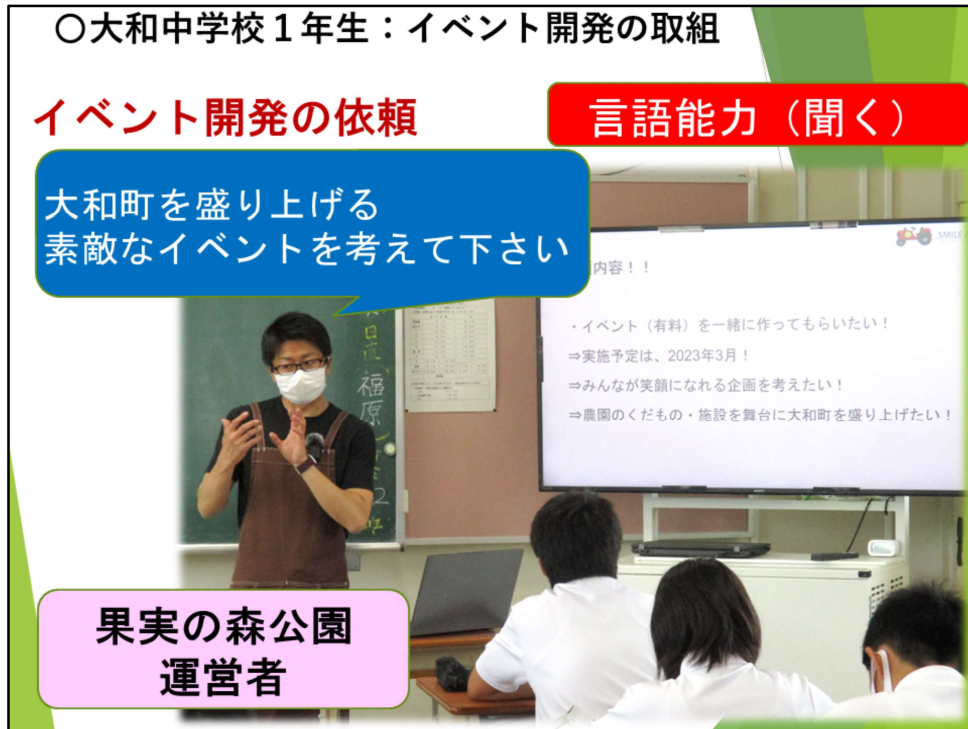
○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント開発の依頼

言語能力（聞く）

大和町を盛り上げる
素敵なイベントを考えて下さい

果実の森公園
運営者



協働して取り組んでくださる企業である「果実の森公園」の運営者さんを紹介した後、運営者さんから、「果実の森公園を使って、大和町を盛り上げる素敵なイベントを考えてください。」と依頼を受けました。

生徒の振り返りには、「大和町の人たちを笑顔にしたり、楽しませたりするようにし、協働開発を頑張りたい」とあり、地元である大和町を盛り上げたいという気持ちを強く持った様子が伝わってきました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント開発のポイントについて

言語能力（聞く）

イベントを作るためには…

イベント開発社
(株)KOTOYA

■イベントの作り方

①イベントの目的を決める！

みんなを笑顔に！

果実の森公園を舞台に大和町を盛り上げる！

②会場や日時を決める

果実の森公園

2023年3月（予定）

イベント開発をするといっても、生徒もちろん教員も何からすればいいのかわかりません。

そこで、イベント開発をされている「KOTOYA」さん（小松さん）から、イベントを作るための流れや視点を教えていただきました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント案を考えるためには？

イベントを考える前にした方がよいことを見つけてみる

3月の下旬... いちご

- ① イベントの目的を決める
- ② 会場・日時を決める
- ③ 会場の下見をする
- ④ イベントの内容を考える
(お盆頃)

○いつ
夏休み
夏休み前
○どこで
果実の森公園

自分の都合
お客が多い
イベント
考える時間
がとれる

○何を
会場の下見
従業員にインタビュー
原因を
<インタビュー>

○誰が
大和中学1年生



イベント案を考えるために、
果実の森公園の会場下見をしよう!!

KOTOYAさんの話をもとに、イベント案を考えるためにした方がよいことについて考えました。
そして、みんなで果実の森公園の会場下見をすることにしました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント案を考えるためには？

会場の下見をするときの
ポイントはこれだね!!



- ・内容は
〈下見〉
- ・どんな環境か(匂い、音、日差し、出口・入口)
- ・お客さんの数、年齢層
- ・会場の広さ
- ・地形(草形、傾斜など)
- ・どんな商品が売れやすいか
- ・雨天の天地をどうするか
- ・その場所の良さ
- ・見える景色

会場の下見をするときのポイントをみんなで確認しました。
会場の広さや、その場所の良さ、そこから見える景色などを確認しようということになりました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

果実の森公園の会場下見




主体性



夏休みに果実の森公園の会場下見をしました。
実際に現場を見て、色々なイベント案が浮かんだようです。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント案の考案：夏季休業中 **情報活用能力**

<p>【イベント名】 いちごのつくりとくまのまつり</p> <p>【イベント会場（色ペンやマーカーで囲む）】 </p> <p>【イベントについて（内容、ターゲット、期間、ゲストなど）】 このイベントは、いちごのつくりとくまのまつりを開催し、子供たちと一緒にいちごのつくりとくまのまつりを楽しむことができます。 期間：10月15日～16日 17日～18日の2日間 19日～20日の2日間</p> <p>【イベント参加代金（大人○円など）】 小学生 500円 中学生 500円 高校生 600円 大人 1,000円</p> <p>【イベントのおすすめポイント】 1. 子供たちがいちごのつくりとくまのまつりを楽しむことができます。 2. 大人も一緒に楽しむことができます。</p>	<p>【イベント名】 いちご祭り</p> <p>【イベント会場（色ペンやマーカーで囲む）】 </p> <p>【イベントについて（内容、ターゲット、期間、ゲストなど）】 いちご祭り・子供たちのためのイベント。夏休み期間中に多く開催されているもの。いちご祭りには、いちごのつくりとくまのまつりを行う。 期間：10月15日～16日 17日～18日の2日間 19日～20日の2日間</p> <p>【イベント参加代金（大人○円など）】 大人 500円 子供 300円</p> <p>【イベントのおすすめポイント】 ミニミニお祭り！ ミニミニお祭り！ ミニミニお祭り！</p>
<p>【イベント名】 自分だけのイチゴジャムアイスのアイスを作ろう！！</p> <p>【イベント会場（色ペンやマーカーで囲む）】 </p> <p>【イベントについて（内容、ターゲット、期間、ゲストなど）】 自分たちの好きなイチゴジャムアイスを作ろう。 場所：体育館 ゲスト：なし 自分で作ったイチゴを使う。 期間：1週間～2週間 昼食～夕方</p> <p>【イベント参加代金（大人○円など）】 1000円～600円くらい</p> <p>【イベントのおすすめポイント】 1. 自分で作る楽しさ。 2. 自分で作ったイチゴを使う。</p>	<p>【イベント名】 フルーツポンチと香ばしもち Smileイベント</p> <p>【イベント会場（色ペンやマーカーで囲む）】 </p> <p>【イベントについて（内容、ターゲット、期間、ゲストなど）】 フルーツポンチと香ばしもちのイベント。 期間：10月15日～16日 17日～18日の2日間 19日～20日の2日間</p> <p>【イベント参加代金（大人○円など）】 大人 500円 子供 300円 小学生以下 200円 中学生以下 300円</p> <p>【イベントのおすすめポイント】 果物の盛り合わせ。 フルーツポンチ。</p>

会場の下見をもとに、夏休み中にイベント案を考えました。
個人で考えた案もあれば、2～3人で協力して考えた案もありました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

地域の方へプレゼン

言語能力（伝える）

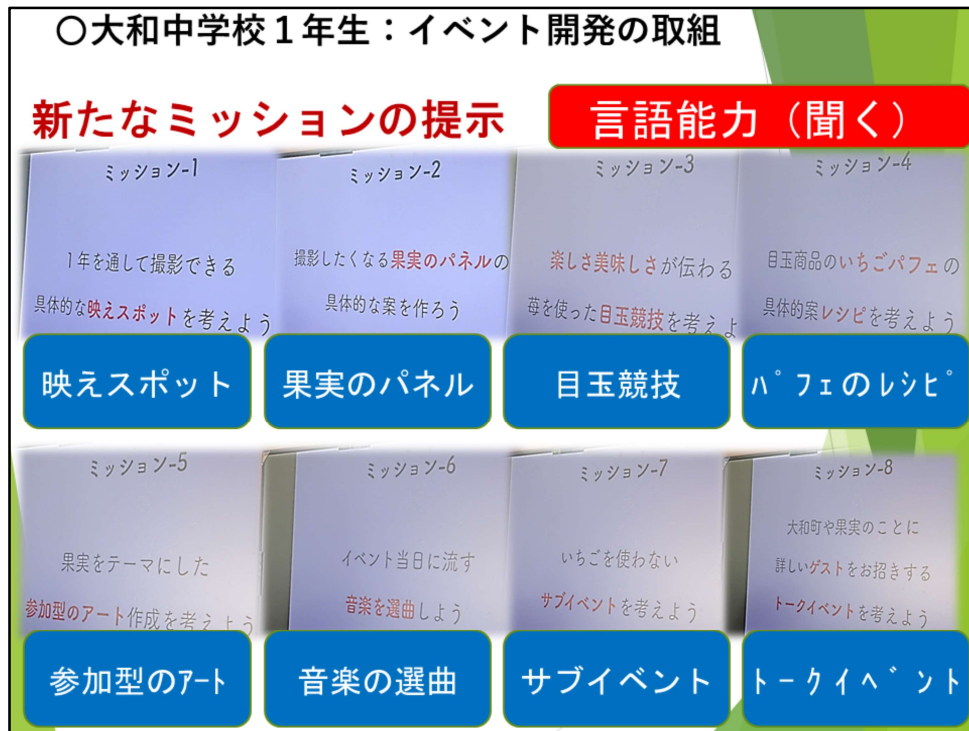


夏休みに生徒が考えた案をまずはクラス内で協議して、9つに絞りました。

9グループに分かれ、それぞれのイベント案の特徴をまとめたプレゼン資料を完成させ、果実の森公園の運営者さんをはじめ、大和中の取組を支えてくださっている地域の方々へ、考えたイベント案のプレゼンをしました。

プレゼンをする際には、イベントに来て頂きたいターゲットやイベントのおすすめポイントなど、ウリとなる視点を明確にして伝えることができました。

プレゼン発表後に、地域の方々が開発を進めるイベントについて協議され、果実の森公園の運営者さんに発表していただきました。



開発を進めるイベントが決まって喜んでいるのも束の間です。
新たに、地域の方から8つのミッションが生徒に与えられました。

それは、

- ① 1年を通して撮影できる映えスポット
- ② 撮影したくなる果実のパネル
- ③ いちごを使った目玉競技
- ④ いちごパフェのレシピ
- ⑤ 果実をテーマにした参加型のアート
- ⑥ イベント当日に流す音楽の選曲
- ⑦ いちごを使わないサブイベント
- ⑧ 大和町や果実のことに詳しいゲストによるトークイベント

を考えることです。

ミッション7の「いちごを使わないサブイベント」を考えるミッションは、生徒の振り返りの中に、「イベントがいちごに関するものばかりだと、いちごが好きではない人がきてくれないのではないか」というものがあり、このことを地域の方に情報提供し、このミッションを加えて頂きました。

※【イベント当日について…「 」内は実施したイベント】

- ①②は、「果実のパネルの映えスポット：無料」

- ③は、「いちご障害物競争」
- ④は、いちごパフェの販売
- ⑤は、「プラ板のキーホルダー」
- ⑥は、3世代が楽しめる曲の選曲。ただし、当日は著作権の都合でパラディーゾさんに依頼。
- ⑦は、「りんごの積み上げ」と「クロスワード」
- ⑧は、「運営者と園長によるトークイベント：無料」

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

ミッションの最適解のプレゼン

言語能力（伝える）



クラスを9つに分け（サブイベントは2班、それ以外は1班）、それぞれのミッションに対する最適解を考え、改めて地域の方々にプレゼンをしました。

プレゼンするときには、なぜこのアイディアにしたのかについて、自分たちの思いやインターネットで調べたデータをもとにスライドの作成をしました。

いちごを使わないサブイベントは、会場を散策する必要のあるクロスワードと、りんごの積み上げ大会を提案しました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

ミッションのブラッシュアップ

主体性



果実の森公園
運営者

地域支援員

ミッションの最適解のプレゼンをした後に、ブラッシュアップに取り組みました。その際、地域の方々に各グループに入ってもらい、生徒と地域が一体となってイベント開発に取り組みました。

※生徒はアイデアを出すのが、本当にそのアイデア通りにできるかどうか判断できないものがある。

例えば、「目玉競技」のいちご障害物競争の中には、いちごを食べて品種を当てるといったアイデアを出しているが、いちごを用意できるかどうかは果実の森公園でないと判断できない。

そのため、地域の方々にも各グループに入ってもらった。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント名の考案

情報活用能力



ある程度、どのようなイベントを実施するか決まったところで、どこで、どのようなイベントが行われるのかが伝わるイベント名の考案をしました。

その際、（株）KOTOYAさんから頂いたイベントに関する資料などを参考にしました。

その結果、フルーツを使うということ、果実の森公園で行うということが伝わる「フルーツFestival in 果実の森～Spring2023～」に決定しました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

お客さんを呼ぶためにこれからすること

お客さんを呼ぶために何をしたらいいだろう

- ターゲット層
・3世代
- イベント 宣伝方法
みんなに伝える
- ポスター、ちらし
- SNS, インターネット
・LIME公式アカウント
- 町内放送
- すぐる
- ラジオ
- 電話
- 動画
・TV
- 新聞
- 果実の森公園のHP
- メール, DM

お客さんを呼ぶために、
こんなことができないかな!!



開発するイベントとイベント名が決まりました。
しかし、これだけではまだお客さんが集まりません。
お客さんを呼ぶために、これからした方がよいことを考えました。

ここにあるように、たくさんのアイデアが出ました。
その中でも、生徒が取り組むことは「ポスター」「ラジオ」「町内放送」としました。



まずは、ラジオ放送についてです。
講師としてFMみはらのMCの方に来校していただき、情報を伝えるポイントや発声の仕方についてお話をさせていただきました。

CM形式（50秒程度×6セット）の原稿と、
インタビュー形式（4つの質問）の原稿を考え、学校でFMみはらさんに録音していただきました。

※CM形式の内容：生徒が何を伝えるとよいか考えた。
ほぼインタビュー形式と同じ内容になった。イベントの具体的な内容が詳しくなった。

※インタビュー形式の4つの質問

- ・どんなイベントを開催する予定なのか。
- ・どのような取組をすすめている、またはすすめてきたのか。大変だったことは何か。
- ・イベントを通して伝えたいことは何か。
- ・ラジオをお聞きの皆さんへ呼びかけ（意気込み+「いつ」「どこで」）。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

宣伝：町内放送

言語能力（伝える）

いつ、どこで、誰が、どんな
思いで、どのようなことをす
るか伝えよう!!

大和支所

町内放送でイベント開催の宣伝を行いました。
限られた字数の中で、伝えたい情報が発信できるよう、大和支所で収録しました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

宣伝：ポスター制作

言語能力（聞く）

自由に楽しんで描いて
ください!!

グラフィックデザイナー

大和中学校キャリア教育：フルーツFestival告知用ポスター制作：作ってもらうもの

イベント名：
フルーツFestival in果実の森
のタイトル

と

フルーツFestival
がイメージできる・アピールできる
イラストを書いてみてください。

ポスター制作をするにあたって、
大阪でグラフィックデザイナーをされている方（大和中学校卒業生）にオンラインで講師になっていただき、デザインの基礎について学びました。

ポスターの要素の中でも、タイトルとイラストを考えてほしいという依頼を受けました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

宣伝：ポスター制作

言語能力（伝える）



5グループが「タイトル」と「イラスト」のアイデアを出し、講師の方にプレゼンをし、評価していただきました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

宣伝：ポスター案への投票依頼



ポスター完成!!

ポスター案は、大和中の生徒全員の投票によって決めました。

このポスターは、投票の結果を受けて選ばれたデザインをもとに、講師の方にブラッシュアップしていただいたものです。

※宣伝の授業の流れは、

- ①FMみはらの方からの授業
- ②グラフィックデザイナーの方からの授業
- ③学級を「ラジオ放送」「ポスター制作」「町内放送」に分けて、同時進行で取り組みを進めた。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベントに必要なものを作成

主体性

廃材を利用して、イベントに必要なものを作ってください!!

果実の森公園
運営者

サブイベントの「りんご積み上げゲーム」では、果実の森公園の運営者から、廃材を利用してりんごに見立ててほしいという依頼を受けました。イベント開催に向けて、イベントに必要なものを作成しました。

SDGsの視点を取り入れています。



各グループで取組を進めていきます。

※上段左から、「りんご積み上げゲーム」「参加型アート：プラ板」「映えスポット」

下段左から、「クロスワード」「いちご障害物競争」
これ以外として「トークイベント」

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

模擬イベント開催

言語能力（聞く）

誰が、どの時間に、何をするかを明確に!!

イベント企画運営会社
CCC

準備が整ったところで、模擬イベントを開催し、改善案を挙げる取組をすることにしました。

模擬イベントを実施するにあたって、イベントを企画・運営されているCCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）の方に、イベントへの心構えや役割分担についての講話をしていただきました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

模擬イベント開催

主体性



体育館を使って、模擬イベントを開催しました。
お客役は、講師のCCCの方、地域の方々、広島大学ボランティアサークルに所属している学生2名や大和中の先生にいただきました。

模擬イベントを通して、お客さんが多いときと少ないときの動きの確認や時間配分など、イベント当日に向けた改善案を多く出すことができました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

模擬イベント開催



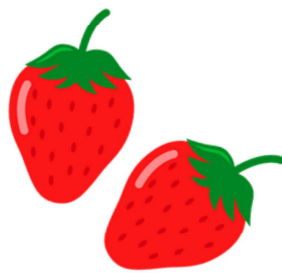
模擬イベント後に、講師の方から気づきを伝えて頂きました。
さらに、生徒自身で改善案を挙げる事ができました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント開催

場所：果実の森公園

日時：3月4日（土）10:00～12:00



イベントは、令和5年3月4日（土）10時～12時に果実の森公園で開催しました。
天気にも恵まれ、大盛況でした。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

イベント開催

主体性、
自己理解・他者理解



広島大学
ボランティアサークル
地域の方々

当日は、広島大学のボランティアサークルの学生11人や、地域の方々にもスタッフとしてイベント開催の協力をしていただきました。

生徒は積極的にお客さんに声をかけ、イベントを成功させようと一生懸命取り組みました。

また、お客さんが子供と大人とでは、声掛けの仕方を変えるなど、相手意識をもって接客する姿が見られました。

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

①園長さんにインタビュー



②クロスワード



イベントは、無料のイベント2つ、有料のイベント4つ、全部で6つ行いました。有料のイベントに参加される方には、500円で4枚綴りのチケットを購入していただきました。それぞれのイベントを紹介します。

①運営者さん、園長さんと呼んで農業についてインタビュー

- ・無料
- ・2回開催

②大和町のこと、果実のことを題材にしたクロスワード

- ・チケット1枚
- ・クロスワード正解で景品（おこめん∞）

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

③プラ板のワークショップ



④いちご障害物競走



③果実や動物のプラ板のワークショップ（参加型アート）

- ・チケット1枚で2個まで作成可
- ・お客さんが色を塗り、その場で焼いて、チェーンを取り付けてキーホルダーにする。

④いちごを題材にした障害物走（目玉競技）

- ・チケット1枚
- ・ゲームをした時点で、トップ3のタイムになった人（グループ）全員に、景品（いちご狩り体験券6、いちごパック10、おこめん∞）

○大和中学校1年生：イベント開発の取組

⑤りんご積み上げゲーム



⑥映えパネル

⑤アップサイクルして作ったりんごを積み上げるゲーム

- ・チケット1枚
- ・1分で4個以上積み上げたら景品（ジェラート引換券10、ジャム20、おこめん∞）

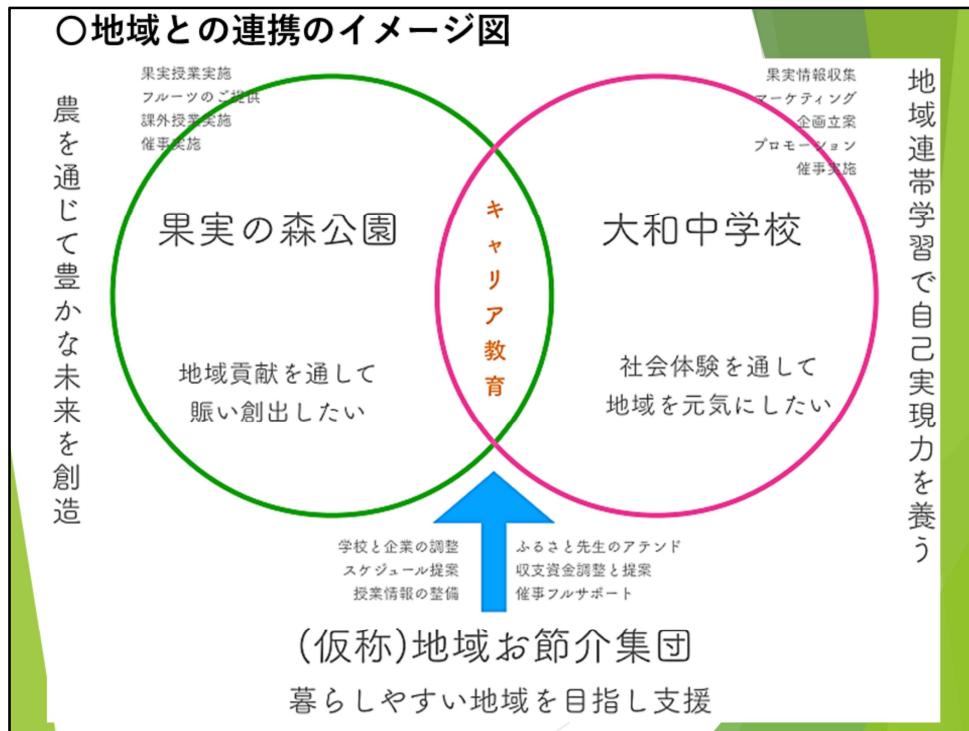
⑥景色の良い場所で映えパネルで撮影

- ・無料

およそ300名のお客さんが来られ、チケットは全部で92枚販売することができました。



模擬イベント後に、講師の方から気づきを伝えて頂きました。
さらに、生徒自身で改善案を挙げる事ができました。



このイベントを開催するにあたって、いろいろな企業や地域の方々、そして大学生と協働して取り組んでいます。

これらの人材をすべて学校が手配することは大変なことです。

大和町にあるおこめん工房の社長さん（大和中学校卒業生）が地域お節介集団の中心となって、連携してくださいました。

※R5より、「地域法人おせっかいさん」となった。